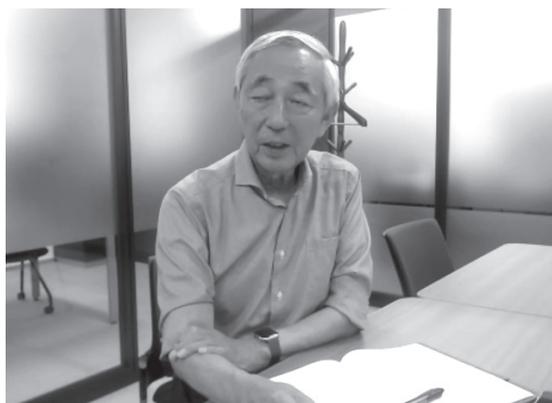


開催迫る第21回日本たまご研究会 卵:明石焼きから癌創薬まで

[ケージ単位鶏数管理システムの実証試験とスマート養鶏への展望も]



鶏と卵の研究所

(株)NBL「鶏と卵の研究所」
八田一氏・南部邦男氏に聞く

(株)NBL「鶏と卵の研究所」(八田一所長)は来る11月8日、京都女子大学で「日本たまご研究会 第21回大会」(Egg Science Symposium 2025)を開催する。本大会では「卵・明石焼きから癌創薬まで」と題し、幅広い卵の世界の不思議・魅力について取り上げるだけでなく、同研究所の目指す「スマート養鶏」に向けた採卵鶏現場の「見える化」実証試験の詳細も発表される。

開催に先立ち、今回の年次大会のおさえるべき要点について、八田一所長と主宰者の南部邦男氏に聞いた。(編集部)

卵の非常に幅広い用途・機能性

——第21回大会も非常に盛りだくさんのテーマを取扱います。

八田 「日本たまご研究会」では毎年、卵の不思議や魅力を再認識し、鶏卵・養鶏業界が直面している諸問題に関する最新情報についても語り合う研究会として、秋の京都に卵の研究者、生産者、流通関係者、消費者など鶏卵に関連する方に参集いただてきた。

今回のシンポジウムテーマ「卵・明石焼きから癌創薬まで」は、特に卵の非常に幅広い用途性や機能性に着目し、食文化から創薬まで興味深い話題を選ばせていただいた。日本コナモン協会の熊谷真菜会長からは「大阪の宝、たこ焼き誕生に影響を与えた玉子焼き」と題して、大阪の食文化やたこ焼きの誕生を、仙台白百合女子大学人間学部の大久保剛教授からは「卵黄コリン摂取の重要性」と題して、栄養面の科学的知見の共有を、(株)小林ゴールドエッグの小林真作社長からは「たまごブログ継続のノウハウ」と題して、ブログを通じて卵に関する情報発信を、そして徳島大学社会産業理工学研究所の宇都義浩教授からは「発育鶏卵を用いた癌の創薬研究」と題してマウスやラットに代替する動物実験法の研究について、それぞれ講演いただく。

また、第7回エコたま表彰を受賞した東京農業大学応用生物科学部の小山翔大助教に、受賞テーマ「卵白タンパク質加熱ゲル物性の分子構造的研究所」の研究成果を発表していただく。いずれも、ここでしか聞けない貴重な話題ばかりだ。

——加えて、昨年の演題「日本た

まご研究会の20年を振り返り―鶏と卵の未来を考える」において緊急提言として示された、鳥インフルエンザの鶏舎タイプ別発生率と早期発見の重要性について、最新情報の報告があると聞いています。

八田 鶏と卵の研究所からの研究提言として、昨年度からの継続テーマとなるが「へい死鶏や鶏卵数のクラウド管理と鶏病の早期発見方法」を本年度の研究成果としてご紹介する予定だ。今年もいよいよ鳥インフルエンザの季節が迫っており喫緊の課題としてご参加の鶏卵・養鶏業界の皆様への参考になれば嬉しく思う。

本研究会は講演者や参加者各位が、鶏と卵に関する情報を介して相互に懇親を深めていただくことを最大の目的としている。今年も対面開催で懇親会も企画しており、ぜひとも幅広い専門家と積極的に交流を深め、たくさんの情報をお持ち帰りいただく有意義な機会としていただけたことを願っている。

鶏舎の「いい」何がを モニタリング

——実証試験は現在どこまで進んでいるのでしょうか。

南部 すでにコマーシャル農場現場のモニタリングデータが集まりつつあり、鶏舎内でのへい死鶏の経時的な変化もお示しできるところまで来ている。私たちNBIL「鶏と卵の研究所」は数年にわたり、鶏の「高病原性鳥インフルエンザへの感染、発症、ウイルスの拡散」等の問題を議論し年次報告書等で研究成果を発表して来た。これらの研究を踏まえ、現在鶏の精密な管理を目指し、鶏の異常を「産卵数の減少」および「へい死鶏の増加」から把握しようと実証実験を進めている。

鶏を取り巻く環境因子は大きく「温度、湿度、およびガス濃度等」が考えられるが、ウインドウレス鶏舎ではこうした環境データを参考にし、それぞれ独自に環境コントロールの試みが行われているかと思う。当研究所はその環境コントロールの結果（アウトプット）として、現場従事者（外国人の場合もあり）の定期見廻り時にQRコードで簡単にモニタリング結果をアップできる仕組みを実証している。観測対象には加えて、体温、飲水量、飼料摂取量等も挙げられるだろう。給餌量はたとえば飼料タンクの減少量から推

定することもできただろうし、これらは相応の効果をもたらして来たともいえるが、実際に「鶏舎内のどの辺りで、いま何が起こっているのか」を知ることはこれまで難しい状態だったのではないか。

我々は最新のIT技術を駆使し、へい死鶏がどの場所ですら発見されたかをインターネット回線を利用しクラウドサーバーに登録し、AI自動分析により報知するシステムまでを目指し、この実証実験を進めている。

——最後に。

南部 この実証試験は鳥インフルエンザのみならずその他の感染症や鶏病、生産性への影響など、飼養衛生管理の未来への可能性を秘めていると確信している。この日本発の取り組みに触れる機会をぜひ見逃さないいただければと願っている。

——ありがとうございます。

なお、参加申込はURL (<https://forms.gle/ov2kcsDaIBGaVYG17>) か、QRコードにて受付中。参加申込の締め切りは10月31日（金）。参加費は1000円、学生は無料。

問合わせは日本たまご研究会事務局 (E-mail: nihontanken@gmail.com)

com) まい。

改訂版 けんぞう先生の卵事例ハンドブック

まるごと解決。卵の疑問

卵の基礎知識 卵の品質指標
卵内の事例 風味の事例 etc.



AB版 約170ページ オールカラー
定価3,740円(税込) / 送料別実費

TEL:052-883-3570
FAX:052-883-3572
info@keiran-niku.co.jp

（株）鶏卵肉情報センター



参加申込QRコード